

ペルーで肺ペストが発生

2010年7月21日 世界保健機関情報(IHR)



7月17日、ペルー政府はラ・リベルタ La Libertad 県 Ascope 郡で肺ペストが発生したことを世界保健機関(WHO)に報告しました。7月20日現在、肺ペスト患者3名が確認されています。

最初の患者は7月3日呼吸器症状で発症しましたが、リンパ節腫脹はありませんでした。この患者は血清学検査及び遺伝子検査(PCR)で陽性と判明しました。患者と接触した2名の医療従事者がその後呼吸器症状をおこしました。2名とも同国国立衛生研究所での検査(1名はPCR、他の1名は血清学検査)で陽性でした。

Ascope 郡の公衆衛生局は、本年4月からこれまでに、腺ペスト患者6名を報告しました(2名は検査により確定診断、4名は疑い患者)。患者全員が、Ascope 郡のサトウキビとトウモロコシ農園の近くの郊外に住んでいます。

国立衛生研究所による現地の疫学及び環境調査の結果、げっ歯類(ネズミ)がペスト菌とその媒介動物であるノミ(ケオプスネズミノミ *Xenopsylla cheopis*)に感染していることがわかりました。発生がどのくらいの期間続いているかは不明です。

Ascope 郡では昨年、ペスト患者15名が発生し、そのうち9名が検査により確定診断されました。総合疫学事務局(OGE)は、現在実施中の調査と制圧対策を支援するために Ascope 郡に職員を派遣しました。

ペルー保健省は、同国でのペスト拡大の危険性の評価を続けることになっています。